

Ⅲ 調査対象と植生調査方法 Methodische Grundlagen

1. 調査対象 Untersuchungsgegenstand

植物社会学的植生調査は、青森県下北郡大間町を中心とする半径 30km 圏内の全域で行われた。現地踏査は1984年の7月と9月の2回にわたって行われた。

調査地域は5万分の1の地形図を基礎図とする広域 30km 圏と5千分の1の地形図を基礎図とする近傍 3 km 圏にわけられた。

植生調査は主として青森県側の下北郡大間町、佐井村、風間浦村、大畑町、川内町、むつ市の各地区で行なわれ、約 160 地点 355 個（3 km 圏では71地点155個）の植生調査資料が得られた。また 30km 圏のかかる北海道の函館市、亀田郡戸井町、同尻岸内町の一部地区で本州青森県側との比較資料を得るため28地点47個の植生調査が行なわれた。

植生調査と並行して土壌面による土壌調査が行われた。土壌調査は各種植生型を対象として、3 km 圏内で8ヶ所、30km 圏内では北海道地区をのぞく9ヶ所の計17地点で行われた。

このほか青森県大間地区を中心とする広域 30km 圏（縮尺：50,000の現存植生図）および大間近傍 3 km 圏（縮尺1：5,000の現存植生図、潜在自然植生図、植生自然度図、植生配分断面模式図）の植図化のための現地踏査が行われた。

Tab. 1. 総合優占度および群度とその内容
Deckungsgrade und Soziabilität (nach Braun-Blanquet 1964)

総合優占度	内 容	総合優占度	内 容
5	その植物が調査面積の 3/4 以上を被覆する。 個体数は任意。	2	その植物が調査面積の 1/10~1/4 を被覆する。またそれ以下であっても個体数がきわめて多い。
4	その植物が調査面積の1/2~3/4を被覆する。 個体数は任意。	1	その植物が調査面積の 1/10 以下を被覆し、しかも個体数が多いかまたは被覆面積が大きい状態。
3	その植物が調査面積の 1/4~1/2 を被覆する。 個体数は任意。	+	被覆する面積も個体数もわずかである。
		r	極めてまれに最小被度で出現する。

群 度	内 容
5	その植物が調査面積内に、カーペット状に一面に群生。
4	大きな斑紋状に生育、またはカーペットに穴があいているような状態。
3	斑小状またはクッション状に生育。
2	小群状または束状に生育。
1	単生。

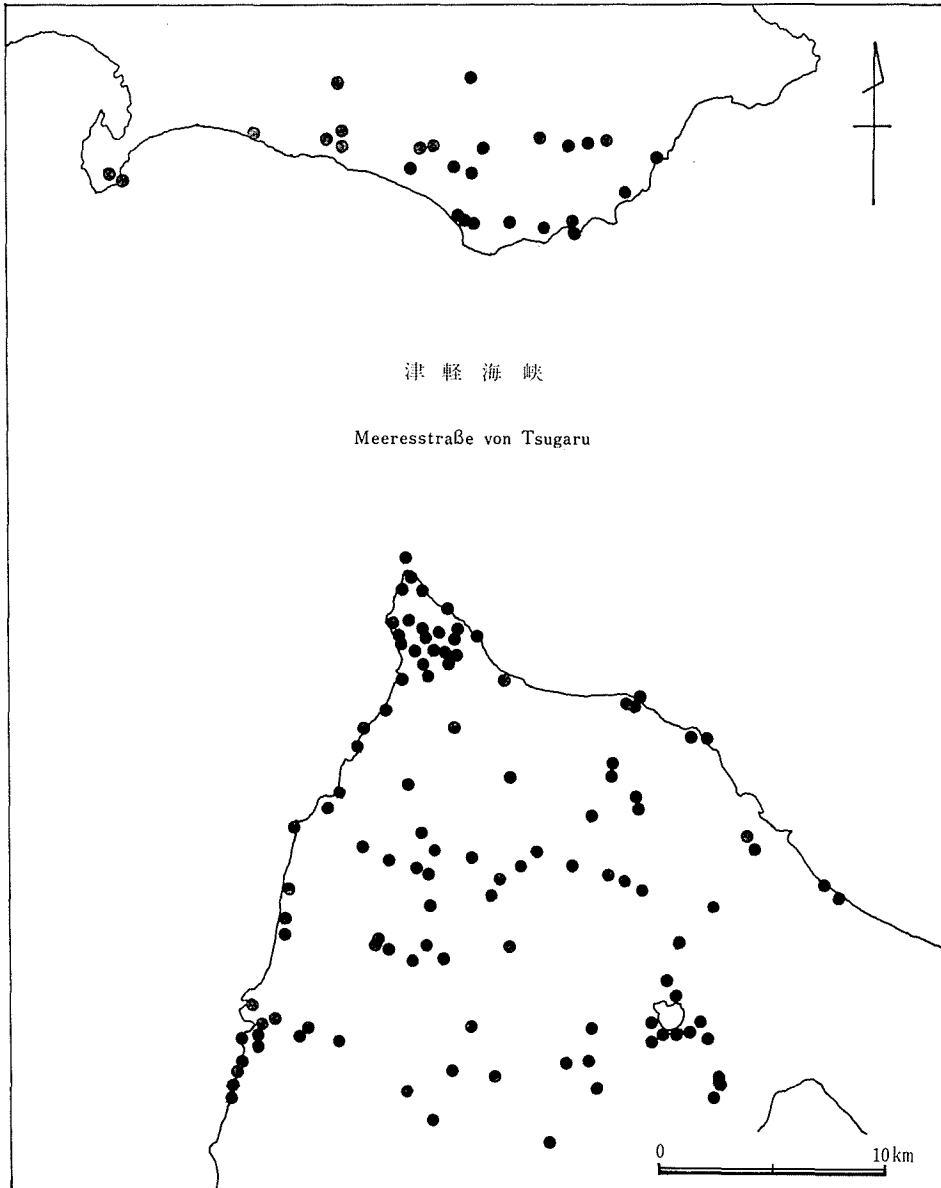


Fig. 9. 植生調査地点位置図。
Punktkarte der Vegetationsaufnahmen

2. 植生調査法 Vegetationsaufnahme

植生調査の方法は Braun-Blanquet (1964) による野外調査法に基づいて行われた。得られた植生調査資料は Ellenberg (1956) の表作製法に基づいて群落組成の比較, 整理を行ない群落単位が決定された。群落の記載にあたっては「下北半島周辺の植生」(宮脇・佐々木1980)が参照

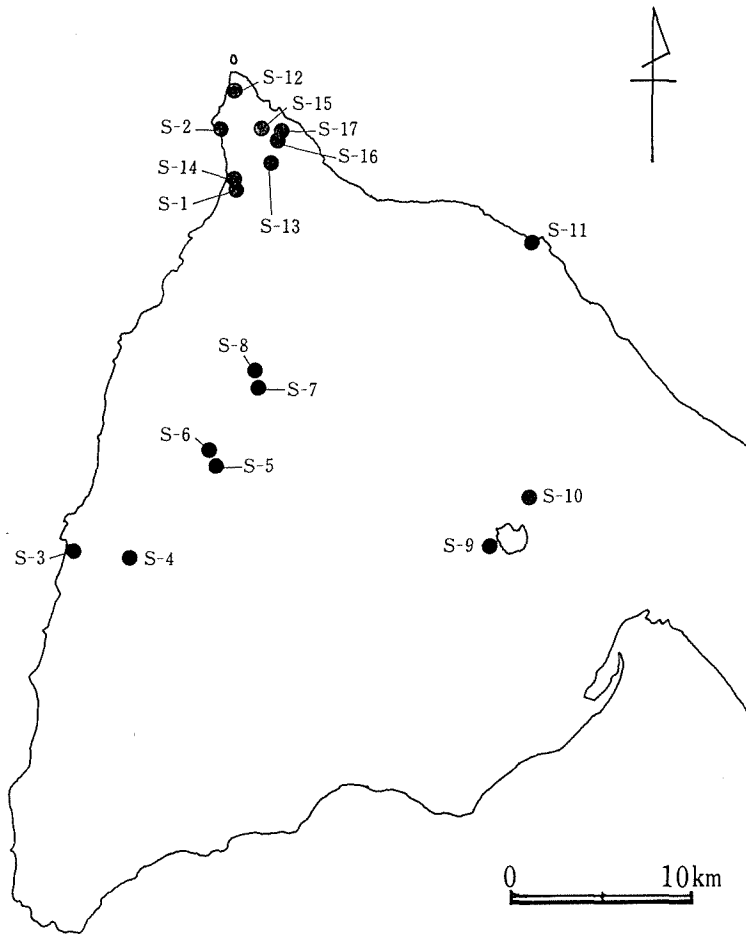


Fig. 10. 土壌調査地点位置図。
Punktkarte der bodenkundlichen Untersuchungen.

された。

現存植生図は記載された群落単位によって植生図作製指針（凡例に基づいて現地で描かれた植生図と空中写真により、植生の広がりや配分の補足、修正を行ない作製された。空中写真は昭和55年度撮影の2万5千分の1のカラー空中写真が使用された。

現在植生図に基づいて3 km圏内ではさらに潜在自然植生図、植生自然度図が描かれた。

大間30km圏内の青森県下北半島および北海道亀田半島部に分布する学術上重要と考えられる貴重植物の調査、選定が行われた。貴重植物の選定にあたっては文化庁（1973）、環境庁（1978、1979）、宮脇・佐々木（1980）らの文献資料が参考にされた。

Tab. 2. 植生調査の一例

Ein Beispiel der Vegetationsaufnahme

Name d. Gesellschaft 群落名: ヒメアオキーブナ群集

Aufn. Nr. 調査番号: MO-73 Dat. 調査年月日: '84.7.12 Ort 調査地: 川内町円山

Aufn. von 調査者: K. O. u. Y. I.

B-1 28m 90%

B-2 12m 20%

S 4m 60%

K 0.3m 20%

M —%

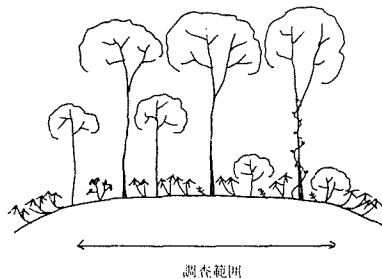
Exp. u. Neigung 方位・傾斜: W/10°

Höhe ü. M. 海拔高度: 450m

Probefläche 調査面積: 20×25qm

Mikrorelief u. Boden 微地形と土壌: 平坦な尾根状地

Artenzahl 出現種数: 24



B-1	S	K
5・5 ブナ	3・3 チシマザサ	1・2 ツルシキミ
↑ 群度	2・2 ヒメアオキ	+・2 ツタウルシ
└ 総合優占度	1・2 オオバクロモジ	+・2 ゴトウヅル
	1・2 オオカメノキ	+ ツクバネソウ
	1・2 ヒメモチ	+ ユキザサ
B-2	+・2 コシアブラ	+ ギンリョウソウ
1・1 ブナ	+・2 エゾユズリハ	+ イチヨウラン
1・1 コシアブラ	+・2 クマイザサ	+ ウメガサソウ
+・2 ハウチワカエデ	+ エゾアジサイ	+ ナライシダ
+・2 ゴトウヅル	+ コマユミ	
	+ ベニイタヤ	
	+ ヤマウルシ	
	+ ナナカマド	

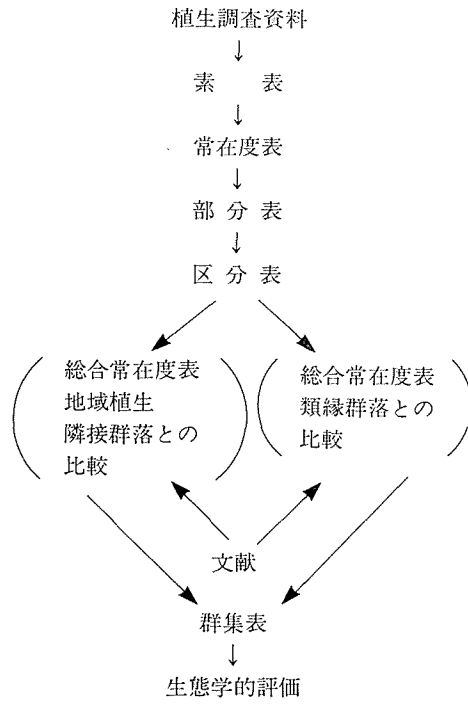


Fig. 11. 群落表作成の手順。

Schema von Aufstellung der Tabellen (nach Ellenberg 1956).